

## 夏期集中講座オンライン初級日本語コース実践報告

倉沢 郁子

### 要旨

本稿は、関西外国語大学で 2021 年夏期集中講座の一環として初めて実施されたゼロ初級者対象オンライン日本語講座“Let’s Begin Learning Japanese”の実践報告である。本コースは日本語や日本に興味がある学生を対象に、日本語がどのような言語なのかを紹介し、日本語学習を試すことができるコースとして設置された。3 週間という短期集中コースであったため、トピックシラバスを採用し、カリキュラムを作成した。終了後アンケートから、コース全体に対する評価はポジティブであったものの、実施期間をもう少し長くし内容量を抑えること、また日本語の書き方への指導を改善することが必要であることがわかった。

【キーワード】 初級日本語、短期日本語コース、オンライン、トピックシラバス

### 1. はじめに

2020 年春学期、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、関西外国語大学（以下「本学」）留学生別科もオンライン授業へと移行した。2020 年度の夏期集中講座はコロナパンデミックにより中止になったが、2021 年夏期集中講座はオンラインで実施されることとなった。開講されたのは、本学で通常学期に行われている Level 1、Level 2 と同等のコース、そして特別に関西弁講座とゼロ初級者対象日本語講座の 4 コースで、筆者はこのゼロ初級者対象日本語講座 “Let’s Begin Learning Japanese”（以下「Let’s Begin」）を担当した。本稿はこの「Let’s Begin」の実践報告を行い、振り返りを行うものである。

### 2. コース概要

#### 2.1 カリキュラム

本コースは、日本語や日本に興味がある学生を対象に、日本語がどのような言語なのかを紹介し、日本語学習を試すことができるコースとして設置された。コースは3週間(90分x9コマ)で時間的制約があったため、文法シラバスではなく、トピックシラバスでカリキュラムを作成することとした。内容を組み立てるにあたって参考にした教科書は「初級日本語 げんき1」(The Japan Times)と「日本のことばと文化まるごと(入門A1)」(三修社)で、具体的なトピックは募集要項発表前に決定していたものの、履修希望者にはGoogle Formで事前アンケートを実施し、学習者の基本情報(名前、学年、専攻、原籍校)、学習者の言語背景、言語学習の背景、本コースを履修する理由等に加えて、日本語や日本文化のどのような側面に興味があるかを聞く質問を用意した。本コースは媒介語に英語を使用した。

## 2.2 学習者について

履修希望者はカナダ、アメリカ、オランダの大学に所属している合計20名で、履修者の出身国は、カナダ、アメリカ、オランダ、フィリピン、ブラジル、バハマ等であった。専攻はゲームプログラミング、年少者教育、法学、ツアリズム、メディアコミュニケーション、ソーシャルサービス、グローバルビジネス、行動科学、ヨーロッパ研究、ビジュアルアート等多岐に渡った。

履修動機も様々で、多くは日本語や日本文化への興味があると答えていたが、いつか日本へ旅行したい、新しい言語を勉強することが好き、何か新しいことを学習してみたかった等、トライアル的コースとしての位置づけとして学習者も認識していたことが窺える。

興味のあるトピックについては、日本文化全般と答えた学生もいるが、ゲーム、ファッション、食べ物、アニメ、生活、精神世界と儀式、そして言語そのものという回答もあった。確定したスケジュール(表1)には、これらすべてのトピックを反映させることはできなかったが、クラス内で取り上げることを心掛けた。シラバスにはCan-doリスト(表2)も提示した。

他に特記することとして、このコースはゼロ初級者対象とコース概要に書いていたため、先述の事前アンケートに日本語の学習歴を問う質問はあえて用意しなかったが、言語学習背景の質問に日本語学習歴を含めた受講生が2名いた。それぞれ6ヶ月以下、独学で学習を進めていたということだった。日本語の語彙を少し勉強したと回答

した受講者も 1 名いた。

表 1

スケジュール (トピック、文法、語彙)		
Class Contents	文法	単語
1 Orientation Greetings Self-introduction, major, age, numbers	あいさつ、XはYです、～さいです、 どうぞよろしくお願ひします、 (nationality)人です	挨拶、専攻、年齢、～人 (国籍)、数字 (1～10)、
2 Yourself and your family	XはYです、XはYですか、 ～は～じゃないです	家族、ともだち、パートナー、ボーイフレンド、ガールフレンド、数字(1～100)
3 Shopping Writing system in Japanese Language	いくらですか、～をください ひらがな・カタカナ・漢字	数字 (1000～10000)、値段、～円 色、アイテム (T シャツ等)
4 What is your day like? - 1	動詞文、助詞、時間の表現	食べる・起きる・寝る・見る・読む・聞く・書く・行く・する・くる 1時 (time expression)
5 What is your day like? - 2	動詞、助詞	たくさん
6 Your town	～があります、～がいます	Location words、図書館、カフェ、レストラン等
7 What do you like? What is your hobby?	～がすきます、(verb) のがすきます 私の好きな (カテゴリー) は、～です。	趣味、映画、読書、ミステリー、SF、ドキュメンタリー、
8 Conversation Session w/Kansai Gaidai Japanese Students	日本人学生にインタビュー	
9 Review & Wrap up	文法のみまとめ、アンケート等	

表 2

Can-do List
After completing this course, with the support of class material, you will ...
1. Know basic greetings in Japanese
2. Be able to give a brief self-introduction, including name, major, and where you are from
3. Be able to order at a shop
4. Be able to talk about your daily routine
5. Be able to give a very short description on your hometown
6. Be able to tell what your hobbies are
7. Be able to ask questions in simple Japanese
8. Know the basic information about the Japanese writing system
9. Be able to write your name in Katakana

### 2.3 修了証について

コース終了時には成績は出さないが、全日程に対して出席率が 60%以上の者に Certificate を出すこととした。通常学期では 59%以下が不合格となるため、同じ基準を採用した。テストや宿題等を課すことは本コースではなしとした。

### 2.4 日本人学生との会話セッション

本コースで必ず実施したかったのは、本学の日本人学生との会話のセッションである。日本語の授業を数回受講しただけで自由に会話ができるようになることは実質

不可能であるが、学習内容を少しでも実際のコミュニケーションにつなげる機会を設けることを目的とし、本学の留学準備教育受講終了者に国際交流部を通して会話ボランティアを募った。募集案内には、留学生が日本語を練習することがこの会話セッションの目的であるが、日本語学習を始めたばかりであるため、実際の会話では英語を交える必要があるだろうと記載した。また前日に Zoom のリンクを送る際、一緒にそれまでに取り扱ったトピックのリスト（自己紹介、家族や友達、日常生活、自分の町等）をメールの文面で知らせ、学習したフレーズの一覧もメールに添付した。受講生は何ができて何ができないかをイメージしてもらえるようにした。

## 2.5 Padlet の活用

本コースでは、授業の振り返りにオンライン上の掲示板ツールである Padlet を用いた。振り返りのボードはクラス全体で一つ用意し、受講生はそれぞれ 1 セクションを使用した。毎授業後に振り返りを書き込むように指示を出したが、その内容は、純粋に授業内容についてコメントを求めるものから、学習した文型を用いた文作成等の言語的産出をしてもらう場としても活用した。日本語の文字体系を導入する際にコンピュータでの入力の方法を紹介することも予定していたため、ひらがな、カタカナ、漢字を使った入力も可能となる。学習者が挑戦したければ、チャレンジできる場を用意することも目的とした。

## 3. コース実施とカリキュラムの変更

### 3.1 教材

授業は Zoom で行い、コースに関する連絡や教材のシェアは本学で使用している LMS (Learning Management System 学習管理システム) の Blackboard で行った。語彙リストはトピックごとに作成し、授業で配布した。受講者には語彙リストで自分に関連する単語を拾ってもらいながら、PPT で提示した文型を練習してもらった。語彙リストは、コース開始前に教員側に提供された学習者情報をもとに作成したが、Zoom のチャットボックスを活用して、他に必要な語彙を提示した。欠席者に対しては、その日の授業の内容のまとめを動画にして YouTube にアップロードし、アクセスできるようにした。

### 3.2 読み書きの練習

カリキュラムをたてた当初は、「あ」～「お」の母音 5 文字のみを導入する予定だったが、学習者の様子をもとに、もう少し導入することとした。か行の 5 文字、そして「がくせい」と単語をいれることで濁音の紹介につなげた。また「わたしは、がくせいです。」という文型がすでに 1 日目で導入されていたため、この一文を例に、7 日目に助詞の「は」と漢字の「私」を紹介し、「私は、がくせいです。」という一文が書けるようにした。コースの最終日には、学習者それぞれの名前のカタカナ表記も紹介した。

### 3.3 宿題

先述したとおり、テストや宿題等、課題を出すことはこのコースでは考えていなかったが、学生からもっと練習したい、宿題を出してほしいという要望があったため、1～2 ページの宿題を数回用意した。提出はローマ字でもいいと伝えたが、日本語の文字体系を導入後、ひらがなで宿題をした学習者が 2 名見られた。

## 4. コース修了者とその割合

最終的に修了証を出したのは 16 名で修了率は 80% となった。本コースではテストを実施しなかったため、不合格になったのは出席率が低かったことが理由である。欠席の理由は、体調不良の他、授業時間が現地時間の早朝や夜間にあたる時間であったこと、また、終業後に帰宅しながら授業を受けていた者もあり、開講時間が多少なりとも欠席の理由に関係しているのではないかと推測する。

## 5. コース終了時アンケートの結果

コース終了時には、担当教員が用意した終了時アンケートへの回答をお願いし、コース最終日から一週間の間に回答を得た。回答率は履修登録者の 55% (受講者数合計 20 名うち回答数 11 名) であった。

コース全体の評価はポジティブであった。一番楽しかった(the most enjoyable moment)のはどんな側面だったかという質問への回答に多かったキーワードは、クラスメート、サポーターティブな雰囲気、サポーターティブなクラスでの練習、インタラクティブ等であった。授業では毎回少しでも Breakout Room の時間をとり、練習だけでなく、

同じ志をもった者同士がお互いを知ることができる場を設けるようにした。Padletでの振り返りにおいても、全員が毎回答えていたわけではないが、自己紹介や興味のある日本文化を共有したり、My Town というトピックでは受講者が住んでいる町の写真をアップロードしたりするなど、このようなやりとりがクラスの雰囲気を作る役割を果たしていたと考えられる。成績がつかないということも学生が気楽に日本語学習にチャレンジすることを可能にしていたのではないだろうか。

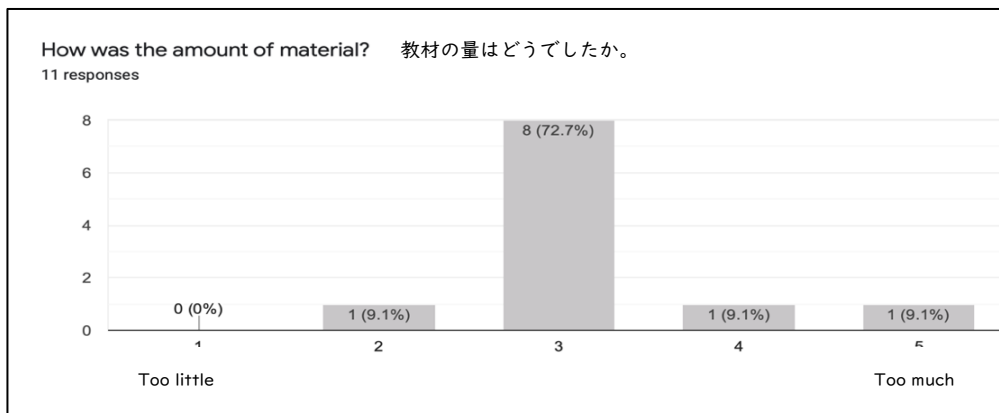


図 1

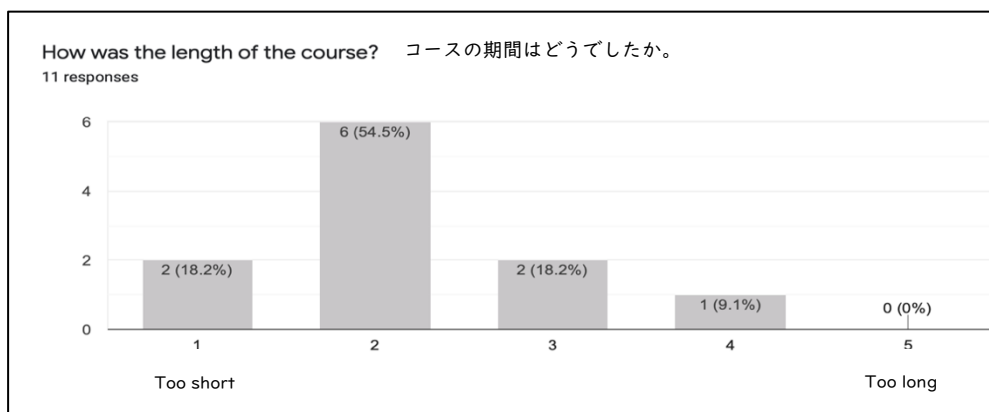


図 2

気になっていた教材の量に関しては、70%以上が「3」(5=Too much、1=Too Little)を(図1)、コース期間は90%以上が「1」~「3」(5=Too long、1=Too short)(図2)という回答だった。

トピックについては、今学期のトピックはどうだったか、また、もし他に自分が楽しいと思うであろうトピックがあれば提案してもらいたいと質問したところ、以下のような提案、及びコメントがあった。

#### **提案されたトピック**

飲食、目標や将来のゴール、旅行、祝祭日、天気、道の聞き方、学校生活、職場、友人との会話

#### **もっと練習したい言語的スキル**

文作成、助詞、リスニング、質問の仕方

#### **その他**

提示した各トピックにもう少し時間をかけてほしい

コースを受講して、何が一番難しかったか (challenging) という質問には、時差、単語を覚えること、短期間に多くの内容を消化すること等のコメントが見られたが、最も多かったのは書き方が難しかったというコメントであった。日本語に触れたことがない学習者にとって、オンラインで書き方を勉強するのは非常に難しかったようである。

以上をもとにコース改善を考えるとすると、今回より期間を多少長くし、内容の量を抑えることが良いようである。また、書き方の指導の再考が必要である。学習者の書き方を画面越しに見ている限りでは、特に難しさを感じていると見て取れなかったが、机間チェックができないところがオンラインの難しさでもある。書き方の動画を確認できるウェブサイトなども紹介してみたが、予定通り母音 5 文字のみを導入する等調整が必要である。

日本人学生との会話セッションについては、「フレーズをならって日本人学生と Interact できたのがよかった」、「日本人学生と話すことが楽しかった」等のコメントがあった。

日本語、日本文化については、受講生がさらに学習を進めたい場合のために、先述したようなインターネット上の学習リソースを紹介した。中でも「アニメ・マンガの日本語」(国際交流基金)のようなウェブサイトをもっと紹介してほしいというコメントが終了後のアンケートにいくつか見られたことも報告として残しておきたい。

## 5. まとめ

以上、2021 年夏期集中講座で実施したゼロ初級者対象日本語講座”Let’s Begin Learning Japanese”の実施内容とその省察をまとめた。3 週間 9 コマという非常に限られた時間であったが、受講生は非常に積極的に参加してくれた。

コース修了後には、本学の通常学期での日本語コース履修につながったケースや、年少者教育に携わっている履修者の 1 人からは、コースが終了してから 2 ヶ月経経った後に、日本の塗り絵を自分の生徒にさせたいので何かリソースがあれば教えてほしいと連絡があるなど、「日本」と学習者自身の日常の活動につながりを見出そうとしたケースも見られた。

本コースの履修を通して、学習者が日本語や日本文化にさらに興味をもち、または今まで触れてきた自分の世界とは違う何か新しいこととつながることができたと感じてもらえたのならばなによりである。

### 参考教科書

坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 (2020) 『初級日本語 げんき』 The Japan Times

来嶋洋美・柴原智代・八田直美 (2013) 『日本のことばと文化 まるごと 入門 A1 かつどう』 三修社

### ウェブサイト

独立行政法人 国際交流基金 「アニメ・マンガの日本語」 <https://anime-manga.jp/>

[kurasawa@kansai.ac.jp](mailto:kurasawa@kansai.ac.jp)